

生徒が創る 未来の膳所高校



九月二十七日、新生徒会正副会長の認証式が校長室で行われた。同月二十五日の選挙で選ばれた新生徒会長・林樟太郎さん、新副会長・久保繁俊さん、同じく新副会長・井田知里さんにお話を伺った。



「生徒の声を反映するシステムを」

生徒会長・林樟太郎さん(二年)

林さんは現在ポート班のキャプテンを務めている。彼が目指す学校像は「生徒みんなの意見が反映されるシステムを持った学校」だという。改革では、生徒の視点を大事にしたいと語った。

今後の活動の抱負について質問すると、「選挙において、目を引くようなわかりやすい公約はなかったが、一つ一つ迫られる選択を工夫したい。予算の決定の経緯など細かなことから変えていきたい。」と話してくれた。生徒へのメッセージとして「よく校舎をぶらぶら歩いているので、ぜひ話しかけてほしい。」と笑顔で伝えてくれた。

「執行部活動に均衡を」

生徒会副会長・久保繁俊さん(二年)

新しく副会長に就任したのは、ソフトテニス班でも副キャプテンを務める久保繁俊さんだ。久保さんは、改革をやみくもに進めようとするのではなく改革を受け入れる側の立場からなど、幅広い視点に立つて、これからの膳所高校の在り方について考えていきたいという。

これからの抱負については、「会長がまっすぐ進めるよう正す役割がしたい。会長が存分に力を発揮できるように、会長がアクセルなら、自分はブレーキのような存在になれば」と語る。生徒に一言をお願いすると、

「皆が一番過ぎしやすい膳所高校に」

生徒会副会長・井田知里さん(二年)

井田さんは現在かるた班とギター班に所属している。どちらも本格的に始めたのは高校に入ってからだという。資料作成や動画制作が得意で、選挙活動中においてもスライドやポスターなどの制作には力を入れたそうだ。そんな彼女は「みんなが一番過ぎやすい膳所高校にした」と言う。その目的を叶えるため、公約に掲げたこと以外にも様々なことに挑戦したいと語気を強めた。全校生徒へのメッセージとして、「強い責任を感じている。任期の終わりに、任せてよかったと思ってもらえる役員になりたい。」と力強く話してくれた。

▲認証式を終えた三人。右から久保さん、林さん

◀認証書を受け取る林さん



紙面案内

1面

- ・新生徒会正副会長インタビュー

2・3面

- ・特集 大津の商店街の今

4面

- ・夏の体験入学 開催
- ・夏季大会結果
- ・編集後記

「膳所高校は、執行部三人だけでなく膳所高校生全員で創っていくもの。全員が参加して、より良い学校にしたい。」と話した。それぞれが追い求める学校像がこれからのように実現されていくのか期待が寄せられる。

大津の商店街の今

近年、「商店街で買い物をする人々にとってどれほど身近なものだろうか。今回の特集では、大津市内の商店街の現実について紹介する。」

膳所高校生にとって膳所商店街周辺での最も身近な話題といえば、学校近くのコンビニエンスストアが閉店したことだろう。それだけでなく、現在、大津市の商店街一帯が変化を続けている。かつて、膳所高校前の一帯には、膳所商店街の一部として様々な商店が軒を連ねており、その様子は「膳所の銀座」とも呼ばれていた。商店の数が減っていったのは昭和五十年頃からだ。現在では、通りの一面に店舗が広がったかつての様相はみられなくなった。店の軒先にはアーケードも連なっていたが、それも老朽化等の理由により撤去された。ナカマチ商店街も、かつては江若鉄道などの要所にあり、多くの人が集まる商店街だった。活気の薄れの大きな原因は、店舗数の減少だ。



ナカマチ商店街
八百興・小倉康寛さん

最大の課題は「承継」

その最大の理由は経営者の高齢化に伴う後継者不足だ、と取材をさせていただいた皆さんは口を揃えて話してくれた。親族の中に後を継げる人がいないことが多く、次の世代を担う人が見つからないという問題が表面化している。

中小店舗だからこそ承継が困難なものになりがちだ。ナカマチ商店街にあるタニムメ水産の北村康弘さんは、「商売が上手くいっていないからではなく、後継者がいないために廃業を選ぶ店が多い。」と語ってくれた。

理由は他にもある。大型商業店やインターネットショップの客数は減少した。「強く影響を受けるのは小売店だ。以前と比べて、小売店の数は減り、サービス業の店や飲食店が増加した。」と、江戸時代から続くナカマチ商店街の漬物店・八百興（やおい）の小倉康寛さんは話す。「マンションの数が増えて、



ナカマチ商店街
タニムメ水産
北村康弘さん

▶膳所商店街 馬杉湖魚店・馬杉和憲さんと店先の様子



住民の数が増えても、地域の商店には根付きにくい。」と膳所商店街にある馬杉湖魚店の馬杉和憲さんがおっしゃった。閉店した店を活用する方法が探られているが、一筋縄にはいかない。「空き店舗をレンタルスペースにする試みをしているが、貸主からの相続などの問題から事業は思い通りにはいっていない。」と馬杉さん。また、新しい商店が創業するにしても既存の商店と対抗し、事業の継続に苦戦することへの恐れから新しい商店も増えにくいという。

膳所/ナカマチ 商店街を訪ねて

振興のため様々なアプローチ

普段と違う商品
を用意するなど
工夫をしている

ナカマチ商店街のイベントとして代表的なもの、数ヶ月に一度開催される「大津一〇〇円商店街」だ。各商店が目玉商品を百円で売り出すイベントで、開催日には多くの人で賑う。

だが、このイベントにも課題がある。効果が一過性のものになってしまっていることだ。当日には沢山の人が訪れるが、次の日には普段通りに戻る。どう固定客の獲得につなげるかが課題だ。また、「全ての店が一〇〇円商店街で利益を上げるわけではない。美容室などのサービス業店や、価格帯

ようだ」と小倉さんが教えてくれた。

商店街の振興には行政も力を注ぐ。大津市役所産業観光部商工労働政策課の栗山誠司さんにお話を伺った。

栗山さんによると、後継者不足による廃業は、過去の承継(店の跡継ぎ)の主流が親族内での承継であったためだという。

そこで注目されるのが、「第三者承継」だ。この仲介に事業経営者による経営者体験や、専門企業による承継マッチングが行われている。その業種への志と適性とを併せ持つ人や、既存のものに付加価値を与えられる柔軟性をもつ人に、事業を継承することができる。大津市は、事業者第三者承継について紹介するパンフレットを作成し、支援の強化や、承継の形の多様化を図る。栗山さんは、「様々な承継の方法があることを知ってもらい、一日でも長くお店を続けてもらいたい。」とおっしゃった。

時代に合わせた取り組み

現代だからこそできる取組みもある。インターネットを活用し、現代に合わせた広告の手法を取り入れている。北村さんは「SNSなどの活用の影響で、若い客層やインターネットによる注文も増えた。」と語る。インターネット活用の講習会も、市の補助金を利用して開かれているという。



△膳所商店街の現在の様子

このように、商店街の振興のためには様々な角度からの働きかけがあるが、どれも現代社会に合わせた形に変化していることが印象的だ。商店街は、商品が手に入るだけでなく、人々が集まり、交流が深まるような憩いの場でもある。小倉さんは「中小店舗だからこそお客さんとよく話をして、その人の好みに合う商品を勧められる」と教えてくれた。また、馬杉さんは「時代の変化を受け入れていかないと仕方がない部分もある。だからこそ、昔からの固定客を大事にしていきたい。」とおっしゃった。取材させていただいたどのお店も、何度も利用してくれる客がほとんどだという。時代の変化はあれど、商店街だからこそ得られる体験も多い。地域社会の一員として、「買い物」に何を求めるのか、考えていきたい。



△現在のナカマチ商店街の様子

Open ZEZE High 2024 開催!



△開催当日の視聴覚室の様子

夏休みも終盤に差し掛かった八月二十一日、二十二日に、膳所高校への進学を検討する中学三年生に向け、Open ZEZE High-2024 が開催された。当日は、視聴覚室から各教室へ配信という形で学校紹介が行われた。代表の膳所高生が視聴覚室から学校生活を紹介し、膳所高校の魅力を存分に伝えた。

学校紹介終了後には、中学生たちは校舎内を自由に見学したり、体験授業を受けたりして過ごした。膳所高校の日常を体験した中学三年生らは、本校進学後への希望を膨らませたり、合格のへ決意を新たにしたりしていた。十一月九日にも、部活動紹介を内容の中心として、秋の体験入学が開催される予定だ。

2024年夏 主な班活動の結果

輝く日々の努力

七月三十一日から八月五日にかけて岐阜県で「第四十八回全国高等学校総合文化祭」が行われた。本校からはかるた班、音楽班合唱部、書道班などが参加し、いずれも素晴らしい結果を残した。合唱部は八月十八日に行われた滋賀県合唱コンクールで金賞を受賞した。この結果を受け出場した関西合唱コンクール（九月二十三日開催）では銅賞を受賞した。運動部では「第七十七回県民スポーツ大会高校の部」が行われ、空手道競技の個人型で本校生徒が見事優勝を果たした。同種目で準優勝、第三

位となるなど他種目でも結果を残し、男子は団体総合準優勝、女子は団体総合三位という結果となった。同大会水泳競技では本校生徒が男子百メートル背泳ぎと男子二百メートル背泳ぎの二種目で見事優勝した。テニス競技ではテニス男子が団体第三位となった。他の大会でも、様々な班が輝かしい結果を残している。どれも日々の努力の証だろう。十月末には秋季総体・高文祭が控えている。それぞれが自分の全力を出し切れるよう、日ごろの練習から頑張った。同種目で準優勝、第三

文化部大会結果

(夏休み期間中)

かるた班

○第48回全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門 奨励賞

音楽班合唱部

○第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会 合唱部門 合唱専門部会長賞

○第29回しがヴォーカル・アンサンブル・コンサート 銀賞

○令和六年度滋賀合唱コンクール 金賞

○第91回NHK全国学校音楽コンクール 銀賞

書道班

○第55回近江神宮全国献書大会 特選 彦根市長賞

○第48回全国高等学校総合文化祭 書道部門 特別賞

※夏休み期間の結果のみ掲載

体育部大会結果

(夏休み期間中)

空手道班

○滋賀県民スポーツ大会 男子個人形 優勝・第2位・第3位 / 男子個人組手 第2位 / 女子個人組手 第2位 / 女子個人形 第3位

水泳班

○滋賀県立高等学校秋季総合体育 女子50m平泳ぎ 優勝

○滋賀県民スポーツ大会 女子100m平泳ぎ 第2位 / 男子100m背泳ぎ 優勝 / 男子200m背泳ぎ 優勝

テニス班

○滋賀県民スポーツ大会 男子団体 第3位 / 女子シングル 第2位 / 女子ダブルス 第3位

陸上競技班

○滋賀県民スポーツ大会 男子200m 第2位 / 男子5000m競歩 第2位 / 女子三段跳 第3位

編集部より

▽気付けば夏も終わり、風の冷たい時季となりました。皆さんは今夏をどのように過ごしましたか？新聞班では、滋賀県知事の記者会見にお邪魔し、実際に質疑に答えていただくこともできました。二・三面の記事の執筆のきっかけにもなる、貴重な経験でした。▽今号は執行部や商店街の皆さん等沢山のの方に取材の協力をしていただきました。様々な方面からのお力添えあってこそこの活動だと感じます。ありがとうございました。